

SHIN CLUB 302

(株)辰 東京都渋谷区渋谷3-8-10 JS渋谷ビル5F

tel/03-3486-1570 fax/03-3486-1450



「南麻布の住宅」 撮影：アック東京

今月のトーク/monthly talk

建設業の匠たちの未来

昨今の建設業は大変厳しい状況となっており、2024年の建設業の倒産件数は1,924件（前年比13.6%増）に達し、2015年以降の10年間で最多を記録しました。一方で、建設業の許可業者数は2023年度末で47万9,383業者と増勢に転じ、コロナ禍の低迷から受注環境は民間を中心に回復傾向にあります。しかし資材高騰や人手不足に伴う労務費などの深刻なコストアップが直撃し、「完工高の伸びは資材値上げ分」と言われる業者も少なくありません。また、就労者の高齢化に加えて、職人不足と後継者不足が同時に進行し、2024年の「人手不足」関連倒産件数は180件（前年128件）と前年の1.4倍と、他業界に比べひと際目立結果となっています。「匠」と呼ばれる職人や建設会社の素晴らしい技術が消えゆく現実は、「こだわり建築」を建て続ける弊社にとって見過ごすことのできない大きな問題となっています。

今回ご紹介する「南麻布の住宅」の設計を手掛けた、芦沢啓治建築設計事務所の芦沢啓治氏も、「モノづくりのできる辰さん」という印象から、弊社へ施工のご相談をいただくことになりました。

「昨今そういった工務店が減っているなかで、全体的にクラフト感満載で、最後までこだわりを貫き通せる会社と言ったら辰さんだね、となりお願いしました。匠と呼ばれる職人さんたちを多く抱えてい

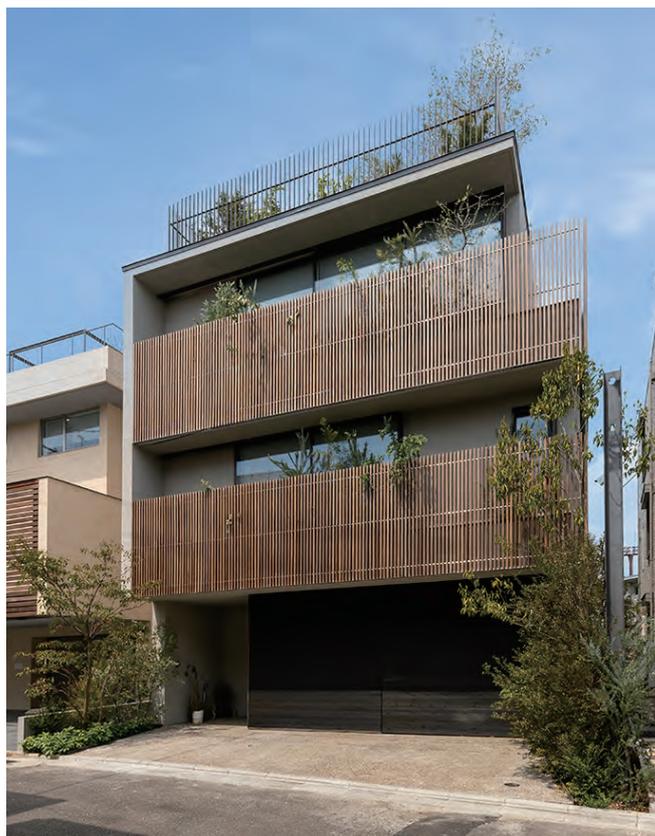
るところに非常に好感を持っており、実際現場を見ても、その粘り強さをすごく感じましたね」と語る芦沢啓治氏。

今回リビング空間には大きな暖炉を計画しましたが、躯体埋込の仕上がりとなっているため、構造躯体打設とは分けて、現場打設にて仕上げています。

「先に周辺ベンチを躯体と共に打設し、その上から現場打設しています。手間が掛かり大変なのは分かっていますが、さすが慣れているという感じで対応していただきました。難なく施工していただきましたが、他の会社さんではそうはいかないんですよ。また、階段の手すりは持ち手が1階から最上階まで繋がっているため、全て現場溶接しています。溶接箇所の磨きやR加工も現場でいただいているにもかかわらず、仕上がりは凹凸がなく本当に綺麗。しかもスピーディに対応していただいて、本当に感謝しかありません」と設計を担当された川見憲史氏。

高いデザイン性と機能性に優れた建物を造り続けるために、その施工技術を磨き、技術の継承を絶やさずご期待に応えられる会社であり続けるよう、さらに精進してまいります。

南麻布の住宅



建物全景。揃ったファサードがディテールを引き立てる

クラフト感のある専用住宅

都会の住宅密集地で、プライベートを保った庭を得る事が希薄になりつつある現代において、外部と内部の統一感が感じられる建物を目指した。

庭にこだわりを持った建て主様のご要望で、リビングを敢えてセットバックさせ、大きなバルコニー空間を設けた。リビングからバルコニーへ出るサッシは、細いスチールフレームをデザイン。型材を使用しているため軽やかで滑らかな開閉ができ、フルオープンとなることで、開放感を演出。床の凹凸を無くしたことでストレスなくバルコニーへ移動が可能となっている。

リビングから屋上に繋がる動線と空間は、外部と内部との一体感が生まれることから、1つの空間として捉えており、リビング空間を設計するときと同じ熱量を込めて設計。屋上を永く、心地の良い空間として使ってもらうために、植栽で囲み、癒しの空間としてジャグジーを設けた。都心に居ながら開放感とプライベートが保たれた特別な屋上庭園となっている。

階段の手すりは、沈み感や強度、つなぎの感じなど毎回考える部分だが、やはり使いやすいことが1番重要となる。それによりリズム感や安心感が表れ、突き詰められたディテールの美しさが際立つ。持ち手は1階から最上階まで繋がっており、現場で溶接・R加工・研磨をすることで、フラットで滑らかな仕上がりとなった。ワイヤーは外から貫通させてボルト締めし、端部をカットし表面を研磨・塗装することで内側から引っ張っているような仕上げとしている。

住む人や街に対し、「正直なデザイン」をすることで、使いやすさや安全性、無駄がそぎ落とされたディテールの鮮麗さが感じられる建物となった。

(芦沢啓治建築設計事務所 / 芦沢啓治氏・川見憲史氏 談)



木製サッシを取り入れた2階居室



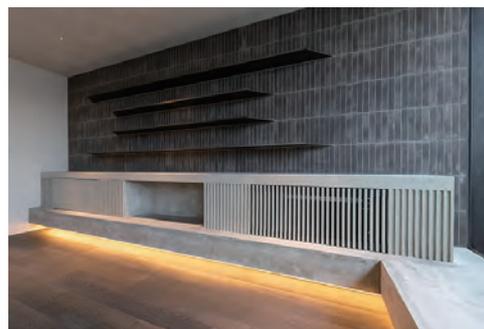
木の温かさを感じられる2階リビング



3階バルコニーへは細フレームサッシ開口からアクセス



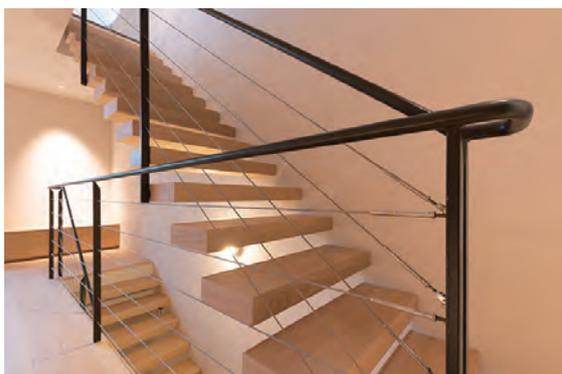
3階リビング。ベンチは躯体と共に打設強度を確保



現場打設した暖炉納まり。スリットを綺麗に表現



ジャグジーが設けられた屋上庭園



ディテールと仕上がりにこだわった階段手すり

構造：RC造
規模：地上3階
用途：一戸建ての住宅
設計・監理：芦沢啓治建築設計事務所
竣工年月：2024年12月
施工担当：堤・小林(弘)・マウン / 谷田チーム
撮影：アック東京



Keiji Ashizawa



Kenji Kawami

今月は、「南麻布の住宅」の設計者で芦沢啓治建築設計事務所の主宰 芦沢啓治氏と担当の川見憲史氏にお話を伺いました。建築設計事務所でありながら、家具や照明などのインテリアデザインもされている芦沢氏と川見氏。日本のみならず、海外でも活躍されている背景には、「建築＝建物」の考えに囚われず、「空間そのものが建物」という大きな想いのもと業務に取り組まれています。そのきっかけと想いに触れた結果、「正直なデザイン」にいきついたそうです。

ーインテリアデザインを始めたきっかけは何かあったのでしょうか。

芦沢：設計事務所時代に辰さんに施工していただいた建物で特注サッシを設置したのですが、そのときものづくりって楽しいなと感じました。同時に、既製品を使用した際の自由度の低さに気が付いてしまい、「これに合わせて設計しなければならないのか」と思ってしまったんです。表現したい建築はあっても、ものづくりの知識がないと造れないなど。事務所を退所後、金物制作会社に勤務し家具や椅子、照明などの製作を経験したことでインテリアデザインに繋がっていきました。

ー建築目線からインテリアデザインを始めたとき、それぞれ違うアプローチだったかと思いますが、気づかれた点などありましたか。

芦沢：どこまで気を使い突き詰めていけるか、ですね。建築は外側だけであれば良いのか。家具が納まったときの空間の良さは引き出せているか。機能的にカーテンが必要なのか。その空間ではどんな食器を使ってもらおうのか。そこまで設計できて初めて「空間」が成立すると思うんです。自分で設計すると納まりやその後の雰囲気、仕上がった空間をどのように彩るのがベストなのかも分かってくる。そのためには建築を理解できていないと難しく、建築・インテリアの無限に存在するディテールの組み合わせのなかで、設計者にそれらの知識がないと高いクオリティの空間はなかなかできません。実は空間の質はそういったところで決まってしまうので、その怖さと面白さはありますね。こだわりを持つと結果いろんなものを造りなくちゃいけなくなってしまう（笑）

ー事務所のモットー「正直なデザイン」という言葉が印象的です。

芦沢：「機能や素材に対して誠実に、ごまかさないようにする」。綺麗なデザインだけけど使いにくいとか、使いやすいけどすぐにメンテナンスが発生するとか。機能や物の有り方など守らなければならない部分に対して誠実に、そのうえで美観を突き詰めていくと「無駄のないデザイン」になるんです。その域に達したディテールは本当に美しいですね。そういうのを見極めないとダメかなって思うんです。建物も同じで、公共性を持ったパブリックなものですよね。その建物が街に対して雰囲気を壊すものであってはいけません。いずれ所有者が変わる可能性のある未来に対し、そのパブリック性をどう考えるか。それは1つのテーマになっています。

ー川見さんは大学卒業後芦沢先生の事務所に入所されていますが、どういった部分で「正直なデザイン」を感じますか。

川見：やはり機能あつてのデザインですね。デザインに近づきすぎたせいで使えづらかったり壊れやすかったり。機能や使いやすさを考えたうえでデザインというのが正直だと感じます。学生時代は建築の外側を造るのが当たり前だったのですが、インターンシップでコペンハーゲンへ行ったとき、収納などの機能を上手に取り入れながら間取りを造っていく考え方でした。外側だけ設計して終わりとしてきた自分にとって、その考え方に感銘を受けました。帰国後入所してからその考え方は変わらず、芦沢の思想に共感したこともあり、さらに建築・インテリアまで分断せずシームレスに考えて設計するようになりました。

ー建築とインテリアの設計をする際、違いはありますか。

川見：細かいディテールは両方とも大事ですね。機能を活かし、細かくディテールを追求していくと無駄が省かれ素材がどんどん際立ってくる。その鮮麗さがとても美しいと感じます。そういう意味では、建築もインテリアもディテールって大事だなと思います。入所して8年ほど経ちますが、まだまだ学ぶことが多いです。よく3, 4年で独立と言われますが、体感的には全く足りないです（笑）

芦沢：もちろん若くして独立し活躍される方もいらっしゃいますが、そこからの成長は結構大変だと思います。我々の事務所は去年やったことが今年ももっとできるようになったり、来年はもっとできるようにしたいなど、事務所自体が成長しています。その箱舟に乗りながら自身も成長していけるので、決して早い独立が良いとは言えないですね。インテリアだけ取っても建築の知識があるとならぬとでは製品を造るとき全然違う。クライアントへの安心感や説得力にも繋がりますので、時間は掛かりますが、しっかり経験と知識を身に付けて欲しいですね。

ー本日はありがとうございました。

芦沢 啓治（あしざわ けいじ）

1973年 東京都生まれ
 1996年 横浜国立大学建築学科 卒業
 architecture WORKSHOP 入所
 2002年 super robot 勤務
 2005年 芦沢啓治建築設計事務所 設立
 2011年 震災後石巻にて公共工房「石巻工房」設立
 2016年 文京区小石川にギャラリースペース「DESIGN 小石川」設立

川見 憲史（かわみ けんじ）

1991年 東京都生まれ
 2014年 武蔵野美術大学建築学科 卒業
 2017年 明治大学大学院建築学専攻 修了
 芦沢啓治建築設計事務所 入所

TOPICS/INFORMATION

2025 年度の新入社員を紹介します



■海保 匠汰 (かいほ しょうた)
中央工学校
建築工学科 三年過程

実務に関してどのように進めていくのか想像がつきませんが、専門学校で学んできたこと、研修で得た知識を活用して上手く適応していきたいと思っています。成長することを意識して取り組んでいこうと思っています。



■北川 陽菜 (きたがわ ひな)
田園調布学園大学
人間福祉学部
心理福祉学科

未経験のため知識はほとんどないのですが、精一杯取り組み頑張っていきたいと思っています。これからよろしくお祈いします。



■星野 蒼波 (ほしの あおば)
東洋大学
法学部
企業法学科

業務内容に直接関係のない学部卒業ですが、学んできたことを応用して、仕事へ活かすことが出来るように精一杯頑張っていきたいと思っています。初心者ですがよろしくお祈いします。



■光林 千穂 (みつばやし ちほ)
専修大学
文学部
歴史学科

もともと建築に興味があり、辰の挑戦意欲に魅力を感じたため入社しました。未経験で建築や施工管理についての知識はほとんどありませんが、早く会社に貢献できるよう全力を尽くします。よろしくお祈いします。



■黄 浩然 (ファン ハオラン)
専修大学
文学部
日本文学文化学科

まだ右も左も分かりませんが、とりあえず元気だけは満タンです！ご迷惑をお掛けするかもしれませんが、どうぞよろしくお祈いします！

本社研修後、1か月の現場研修を経て、本配属となります。どうぞよろしくお祈い致します。

<本社研修内容>

・現場体験	4/23 (水) ~ 4/25 (金)	講師：讃井
・eラーニング	4/28 (月) ~ 5/2 (金)	講師：佐々木
・積算講習	5/7 (水) ~ 5/20 (火)	講師：笹原
・CAD講習	5/21 (木) ~ 6/2 (月)	講師：川崎
・営業研修	6/3 (火) ~ 6/5 (木)	講師：村田
・第2 建築部研修	6/6 (金)	講師：折田
・現場・建築本部研修	6/9 (月) ~ 7/4 (金)	講師：讃井

「手ぬぐい」の新たなデザインを公募いたします

弊社では「結び」の想いを込めて、新年のご挨拶や粗品として手ぬぐいをお配りしております。これまで野老朝雄氏、永山祐子氏、鈴木孝紀氏にデザインを手掛けていただきましたが、「常に初心を忘れない」という気持ちも込め、定期的にデザインを一新します。

この度その季節がまいりましたため、新たなイメージの手ぬぐいを一般公募することとなりました。2026年から新デザインの手ぬぐいを配布予定です。ぜひ皆様奮ってご応募ください。

【応募特典】

- 賞金
大賞 : 1名 50,000円
参加賞 : 応募者全員 (総数によって変更あり)
- 大賞受賞作品にサイン・クレジット表記 (希望者のみ)
- 完成した手ぬぐいサンプルのプレゼント

応募締切 : 2025年6月30日 (月) 必着

<募集要項及びデザインの注意点>

【手ぬぐい】

- ・サイズ・形式・・・縦 350 mm × 横 900 mm 原則 illustrator 形式・手書きイラスト可 (縦・横問いません)
- ・色は1色でお願いします。
- ・2 mm以下の線は色が浸食し線が消えてしまうため、線幅は2 mm以上でお願いします。
- ・生地の手端に近い柄は切れてしまう恐れがあるので、柄のデザインは、生地の手端から2 cm以内におさめてください。裁ち落としの場合は外側に2 cm以上の塗り足しを設けてください。

【色指定について】

- ・「DIC (ディック)」や「PANTONE (パントン)」と呼ばれるカラーチップでの色指定があれば尚良いです。お持ちでない場合はお手持ちの紙片や日塗工などのカラーチャートを提出してください。
- *パソコン画面上の指定だけではイメージと異なる仕上がりになる場合があります。
- *「金色」「銀色」「蛍光色」「夜光塗料」はご指定いただけません。

【その他】

- ・応募・問い合わせ先 : 営業部 デザイン募集係 shinfo@esna.co.jp まで
- ・ご応募は、未発表のデザインに限ります。
- ・応募作品の著作権・使用権は弊社に委ねられます。
- ・応募作品は当社 SNS 等で掲載・紹介させていただく場合があります。
- ・7月中旬まで連絡の取れるご連絡先をお知らせください (受賞後の制作打合せの為)
- ・応募作品は匿名による開示をし、社員投票結果をもとに社内審査の上大賞決定。

編集後記

・【神宮前5丁目プロジェクト完成内覧会のお知らせ】
ツチヤタケン設計事務所の手掛けた、神宮前5丁目プロジェクトにて完成内覧会を開催。
2025年6月4日 (水) 10 : 00 ~。詳細・受付は右のshinstagramのQRコードから！
(株)辰通信 Vol.302 発行日 2025年5月10日
編集人 : 本間夏来/土屋祐一郎 発行人 : 岩本健寿
〒150-0002 東京都渋谷区渋谷 3-8-10 JS 渋谷ビル5F TEL:03-3486-1570
FAX:03-3486-1450 E-mail : daihyo@esna.co.jp URL:http://www.esna.co.jp



「SHIN CLUB」はWEB上でもご覧いただけます。バックナンバーもPDFで掲載しています。スマホはこちらから →

